

今回は、関高卒業生による「ひとり親世帯の子供に対するオンライン教育支援」についての報告です。

参加者のうち、江川舞さんと橋口天音さんは、高校生の頃からまちづくりに高い関心があり、NPOぶうめらんの取材や編集に携わりました。松田敦希さんは、高校2年次にSGH活動の一環として18歳選挙権の問題に取り組み、ワールドカフェ方式の授業で啓発活動を行いました。

今回の卒業生のように、高校で取り組んだ活動を通じて得た問題意識や行動力を、社会貢献につなげた意義は大きいと考えます。

1・2年生のFRH活動も、学校再開とともに本格的に始動します。地域と世界の諸問題について学び、具体的な課題解決に向けて探究する意義ある活動です。

4 質の高い教育を  
みんなに



## ◇ オンライン教育支援の趣旨

元々、NPO法人子援隊が、関市のひとり親家庭の小中学生への学習支援「無償学習支援教室てらこや文殊堂」を小学生、中学生それぞれ週に一回、関市内に場所を借りて行なっていました。しかし、コロナウイルスの感染拡大に伴い、学習支援教室をそれまでのように対面で行うことができなくなってしまいました。

そこで、関市市民活動センターの北村隆幸さんから、感染のリスクがないオンラインでの学習支援をやってほしいというお話をいただき、その学習支援を4名の一人親家庭の中学生に対して行うことになりました。

## ◇ 具体的な活動内容について

期間・・・学校が休校期間の5月(1ヶ月間)

実施回数・・・週に2回

実施時間・・・約1時間

教科・・・数学と英語中心

オンラインミーティングツールであるZOOMを使用して、大学生と生徒の1対1で学習支援を行いました。大学生と生徒は同じテキストを使用し、問題を解いて、わからないところをその場で質問したり、解いてきてわからなかった問題を質問するといった形式で進めました。また、学校の授業が休校期間で進行してないこともあり、中学3年生は2年生の復習を、2年生は1年生の復習を中心に行いました。

## ◇ 参加者の感想

外出自粛で家にいるしかない自分に、何か誰かの助けになれることはないかと考えていた時、同じように困っている中学生に勉強を教えてくださいませんかと言う話が来ました。将来教員職に就くわけではなく、塾や家庭教師の経験もありませんでしたが、こんな私でも力になれるならと思い、オンライン学習支援に参加しました。

学習支援をやってみて、教えることの難しさや、相手が自分の教えたことを理解し問題が

解けたことの喜びを感じることができました。とてもいい経験をさせてもらいました。

(愛知淑徳大学 人間情報学部 人間情報学科 図書館情報学専修 3年 江川 舞)

高校ぶうめらんでお世話になって以来、様々な場面でお話を聞かせていただく北村さんにお誘いを頂き、今回の学習支援に参加しました。大学で社会教育についても学んでいるため、このような機会は人の役に立つだけでなく、自分の学びにもプラスになる！と思い迷いなく受けさせてもらいました。

実際に学習支援に携わって、人に教える難しさを痛感しました。特に私は中高ずっと数学が大の苦手だったため、復習を丁寧に行っても実際の授業の際にはなかなか上手く伝えられなかったりといった苦勞がありました。しかし回を重ねるうちに、要点を上手くまとめられるようになり、達成感も増えました。また、私のあまり上手でない指導でも真剣に聞いてくれる中学生の眼差しや、毎回課題をきっちりやり切って計算がどんどん早くなる様子を目の当たりにすると、私もものすごくやる気が出ましたし、嬉しくなりました。

短い間ではありましたが、とても有意義な経験でした。コロナが収束し、関に帰った際、次は対面で、教えた中学生やNPOの関係者の方々に会えると嬉しいです。

(東京学芸大学 教育支援課程 表現教育コース 橋口 天音)

地元である関市のために何かできることはないか、また塾講師のアルバイトでの経験を生かせるのではという想いから今回オンライン学習支援に参加させていただきました。

たまにインターネット接続が不安定になって、生徒と話しづらくなったりすることはありましたが、それ以外は何も問題もなく学習支援を行うことができました。また、口頭での解説で分かりづらい部分は、ZOOMの画面共有の機能を使い、生徒に自分が書いた解説を見もらうことでスムーズに進めることができました。

期間は1ヶ月と短く、まだ続けたかった気持ちはありますが、勉強を教えたり、楽しく会話したりすることで少しでも生徒の力になることができたと感じています。

(慶應義塾大学 文学部 教育学専攻 4年 松田 敦希)

